

グローバルサウスの子供達の衝撃の成長
日本の科学技術人材育成とのギャップ

Global Innovator ACADEMY

学長 鈴木健太郎



世界への挑戦を継承し、若者たちの挑戦の連鎖を生む
グローバルイノベーター育成プログラム

Global Innovator ACADEMY

開会式入場行進

オープニング 登壇者紹介



鈴木 健太郎

Global Innovator ACADEMY 学長 | NPO教育の環 代表理事

1982年生まれ

北里大学理学部化学科卒 中学校・高等学校教諭一種免許状（理科）取得

デジタルアートなどで世界的に活躍するチームラボに2007年に新卒一期で入社したのち独立。

独立後は教育を楽しく出来る仕組みをつくる教育クリエイターとして、世界最大のSTEM教育NPO「FIRST」の日本統括ディレクターも務め、190カ国が参加する世界最大の高校生STEM競技会「FIRST Global Challenge」の日本代表監督として世界5位を獲得。その実績と政策提言の知見を元に一般社団法人デジタル人材共創連盟 ガイドライン委員 を務める。

2023年1月に開校した北海道安平町立義務教育学校早来学園の設計に携わる。





MORI Building DIGITAL ART MUSEUM
teamLab★Borderless

Azabudai Hills, Tokyo 2024.2.9 Open



キーワードを入力



マイペー

トップ

速報

ライブ

エキスパート

オリジナル

みんなの意見

ランキング

有料

主要

国内

国際

経済

エンタメ

スポーツ

IT

科学

ライフ

地域

「チームラボ」美術館が世界一 年間来館者数でギネス認定

2024/7/10(水) 15:30 配信 1 🗨️ 😊



デジタル技術を用いた体感型の作品で国際的に活躍するアート集団「チームラボ」の作品を常設展示する「チームラボプラネッツ」（東京・豊洲）が、年間来館者が最も多かった単独作家の美術館としてギネス世界記録に認定され、10日、同館で認定証授与式が開かれた。2023年度に250万4264人が訪れたという。

← 戻る

この広告を非表示

非表示

新フロンタスニティック未来

行きたいミュージアム
世界5位



チームラボ・麻布台
猪子寿之が徹底解説

鈴木 24歳



猪子 28歳



高須さん 32歳



西伊豆堂ヶ島観光記念

平成19年7月8日(木)

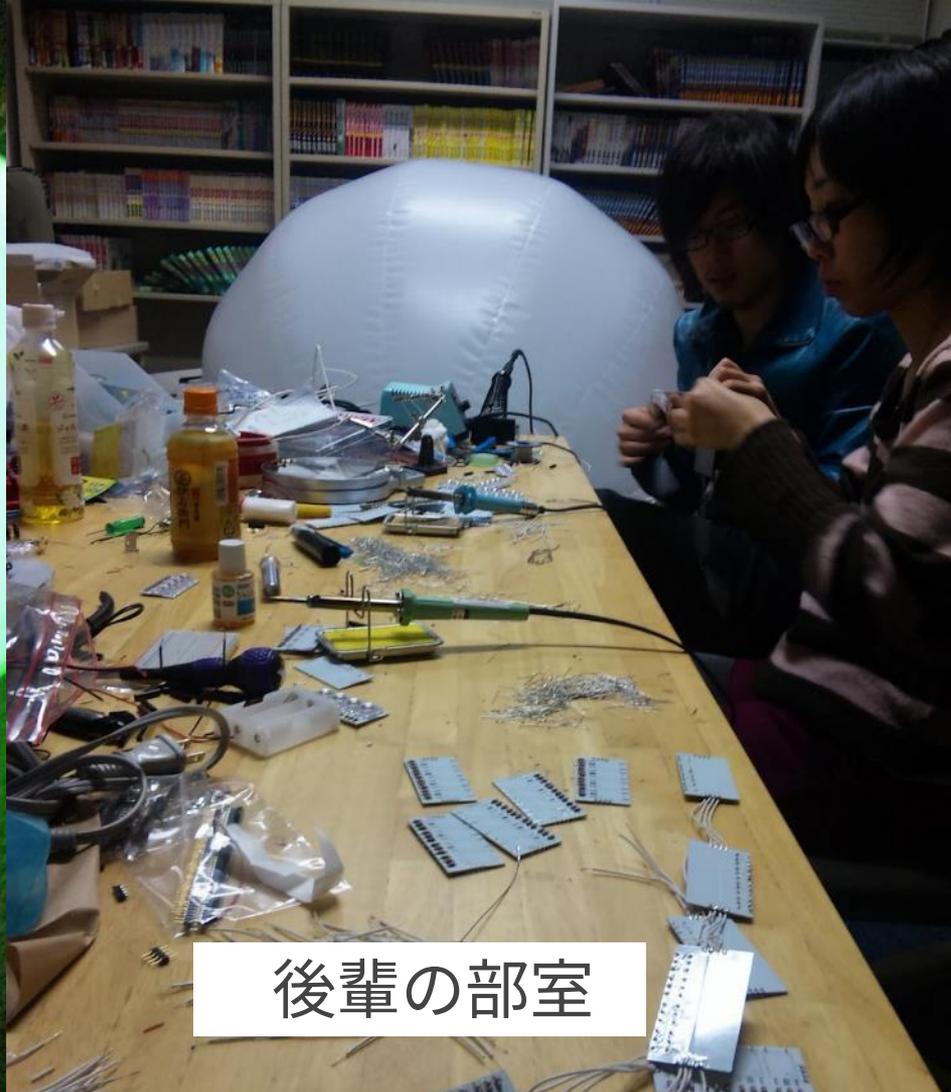
2007年社員旅行

天窓洞 洞窟めぐり遊覧船乗船記念





深夜の公園



後輩の部室



Global Innovators *ACADEMY*

STEMで世界に挑戦できる高校生を増やし、未来のイノベーターを日本中に生み出す





Some team members not pictured

Global Innovator ACADEMY (GIA) は科学技術 (STEM) とグローバルマインドを武器に、世界に挑む U18日本代表を育成するプラットフォームです。

①世界規模の挑戦

世界最大のU18科学技術オリンピック「FIRST Global Challenge (FGC)」の日本代表を運営

②日本中から集まる精鋭コミュニティ

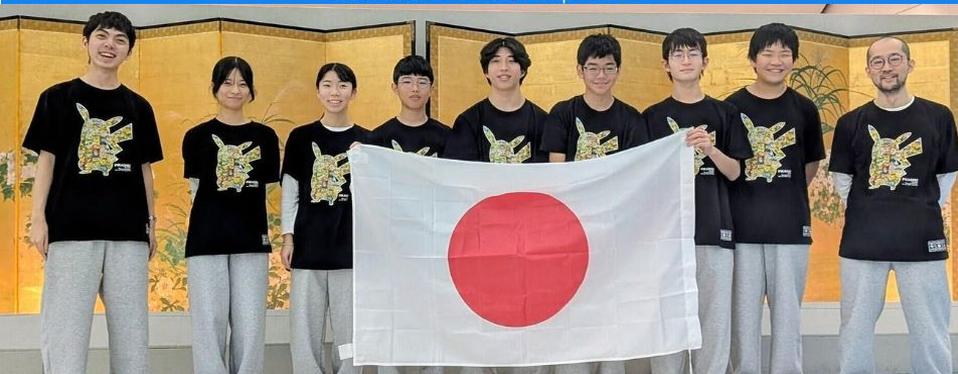
全国から選抜された約300名の受講生

③元日本代表の大学生コーチ陣

過去にFGC日本代表として世界大会に出場した経験を持つ大学生がコーチを担当。生徒にとって最も身近な相談相手・目標となります。

④専門家があつまる社会人コーチ

大学教員や研究者、ロボットコンテストの運営者など、各分野の第一線で活躍するプロフェッショナルが専門的な知見を提供します。



舞台は世界190カ国が集う 「科学技術オリンピック」 FIRST Global Challenge (FGC)



U18年代における世界最大の競技会。毎年地球規模の課題が大会テーマに設定され、ロボット製作や研究で競い・協力し合う、世界最大の国際教育プログラムです。



190カ国以上の
高校生各国代表チームが参加する
世界最大のSTEMオリンピック
「FIRST Global Challenge」



FIRST
GLOBAL

世界が認める教育価値

FGCはジェフ・ベゾス氏、イーロン・マスク氏などの世界的企業、マサチューセッツ工科大学（MIT）、Yale大学などの世界トップ大学が支援し、単なる技術コンテストではなく、国境を超えて協力し、次世代のグローバルリーダーを育成する場として国際的に高く評価されています。



MIT出展ブースで記念撮影

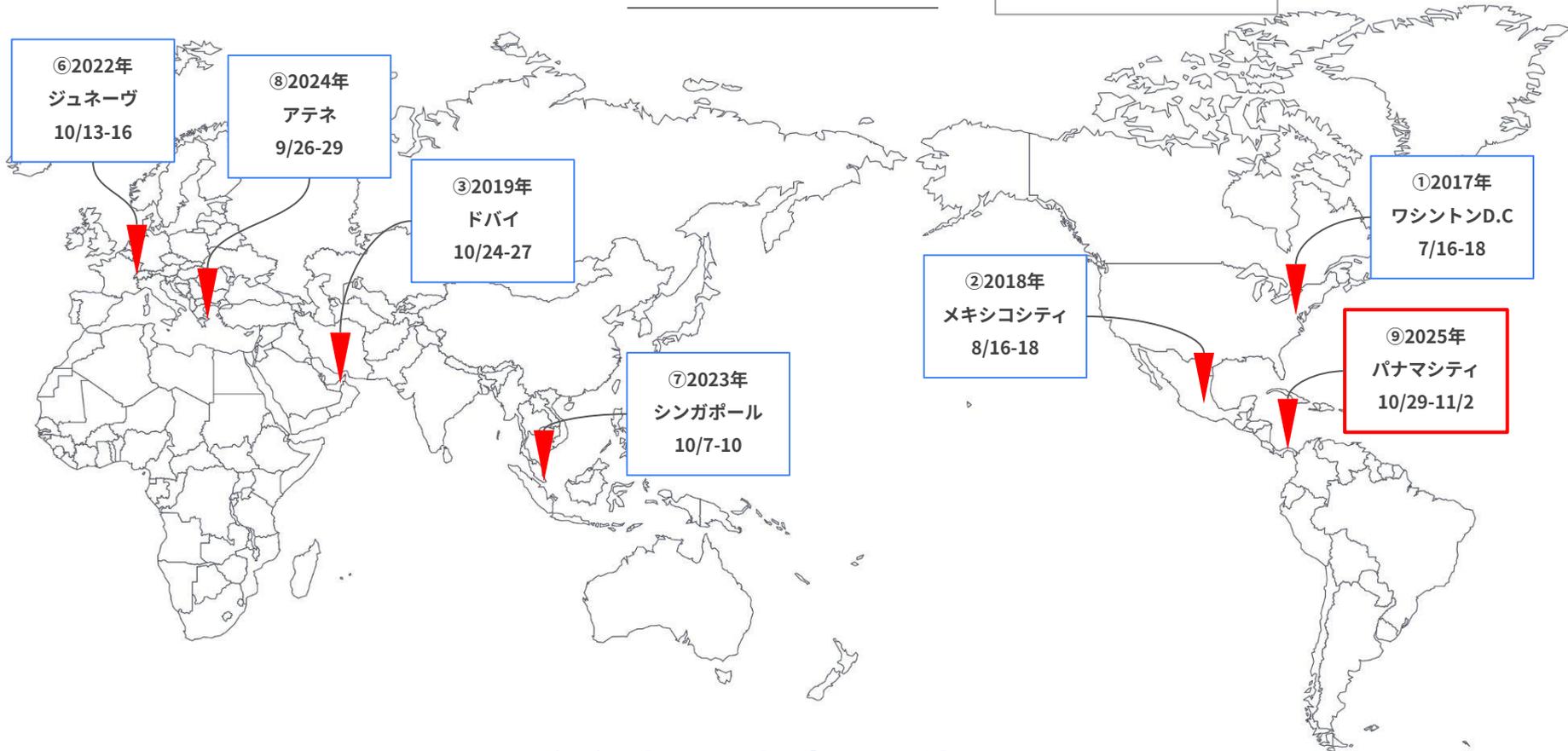


Yale University



FGC開催都市

④2020年 ⑤2021年
コロナによりオンライン開催



毎年世界の都市で開催している

FGC開催会場



コカ・コーラアリーナ
ドバイ



Singapore EXPO
シンガポール



平和友好スタジアム
アテネ



Palexpo International Exhibition and Convention Center
ジュネーヴ



パナマコンベンションセンター
パナマシティ



FGCのプログラムの流れ

毎年

世界課題と開催場所・日程が発表

半年間

4つのプログラムに取り組む

5日間

開催国にて現地参加



プログラム

① Robotics Challenge

FGCの中心となる活動で、各国代表チームが共通のパーツを使い、自ら設計・製作したロボットを国際ルールに基づいて競います。ただ勝敗を競うだけでなく、同じアライアンス（複数国が組むチーム）で協力しながら課題に挑む点が特徴で、国際的な協働力が不可欠です。限られた資材や時間の中で設計・プログラミング・戦略立案を行い、実際のフィールドで成果を試すことで、理論と実践の両面からSTEMを学びます。また、競技中には柔軟な対応力やチーム内の役割分担も求められるため、リーダーシップやコミュニケーション力も大きく成長します。



試合の様子

② New Technology Experience (NTE)

毎年設定される世界的課題（例：気候変動、生物多様性、資源循環など）について、生徒自身が調査・研究を行い、解決策を提案する探究型プログラムです。NTEでは、単に知識を学ぶのではなく、科学的根拠を示しながら「自分たちの地域の課題をどう解決できるか」を国際社会に向けて発信します。チームは研究ポスターやプレゼンテーションを準備し、専門家や他国チームから質問やフィードバックを受けます。これにより、科学的リテラシーだけでなく、論理的に説明し議論する力、異文化間での意見交換力を実践的に磨くことができます。



NTE 発表の様子

STEM is a global language that connects beyond borders, enabling us to learn and develop understanding.

Organize a meetup with another team, preferably from a different continent, to share your cultures! Then make a collab post highlighting what you learned.



Get out your camera! It's time to introduce your team of national athletes to the world.

Share a team photo demonstrating your national pride, a paragraph outlining your team and mission, and a video clip where your team comes to life (e.g. a signature cheer or dance).



実際のSMCの課題

プログラム

③ Social Media Challenge (SMC)

世界に向けた情報発信活動として、チームはX (旧Twitter)、Instagram、FacebookなどのSNSを使い、自国での準備や研究の様子を紹介します。ハッシュタグを通じて各国チームとつながり、互いの進捗や工夫を共有することが求められます。半年間で15個の課題が発表され、その課題への挑戦を通して、生徒たちはデジタル広報の技術、魅力的なコンテンツを発信する表現力、そして社会的メッセージをわかりやすく届ける力を鍛えることができます。さらに、自国の教育や文化を国際的に紹介する役割も担うため、「自分たちは自国を代表して発信している」という自覚と責任感も育ちます。

④ 国際交流

FGCは、競技や研究発表だけでなく、国際交流そのものが大きな柱です。大会期間中には「パレード・オブ・ネーションズ」や「カルチャーナイト」といったイベントが行われ、参加者は自国の衣装や伝統文化を紹介し、互いの国の魅力を学び合います。交流の場では英語を共通語としながらも、ジェスチャーやプレゼン資料を工夫することで、言語の壁を越えたコミュニケーションが生まれます。こうした経験は、異文化理解や国際的な友情を育むだけでなく、「多様性を尊重し、共に課題を解決する」というFGCの理念を体験的に理解する貴重な機会となります。



各国がブースで自国をアピール

Global Innovators *ACADEMY*

STEMで世界に挑戦できる高校生を増やし、未来のイノベーターを日本中に生み出す



育成プログラム

世界を目指す

エンジニア育成プログラム

Global Innovator ACADEMY
Roboticsコース2025

Robotics コース

設定されたロボット競技のルールに沿って、各チーム1つずつロボットの製作に挑戦します。ロボット競技で日本トップ、世界トップを目指すために必要な、戦略・計画・技術・知識を学びます。

ロボット製作を通じて、機械設計・電子工作・プログラミングなどの実践的スキルを習得します。単に作るだけでなく、国際競技に挑戦するための「戦略立案」や「短期間でのプロトタイプ開発」など高度な工学的プロセスを体験します。

地球規模の課題に挑む

ソーシャルイノベーター育成プログラム

Global Innovator ACADEMY
Solutionコース2025

Solution コース

地球規模の世界課題に直結する日本特有の課題を特定し、STEMを活用したソリューションを探求します。また解決するために必要なプロトタイプの作成もチームで行います。世界課題の背景の学習、課題の特定方法、課題からソリューションを導くための考え方、プロトタイプ作成の方法などを学びます。

育成プログラム

Outreach コース

日本国内のSTEM教育環境の向上のため、文科省・経産省・経団連など様々な機関に向けて、普及・提言の活動を行い、その活動が世界でも評価されるよう他国とも外交活動を行います。さらに日本代表チーム全体が活動するの資金調達も行います。外交、マーケティング、PR、ロビイング、ファンドレイジング、など様々な実践的な活動方法総合的に学びます。

世界をつなぐ

外交力育成プログラム

Global Innovator ACADEMY
Outreachコース2025

TEAM Japan



世界への挑戦を継承する元日本代表コーチ陣

GIAでは、過去に日本代表として世界に挑戦したOBOGがコーチとなり、次世代の生徒を直接指導しています。さらに、社会人として国際舞台を切り拓いてきたパイオニア的存在のメンターも加わり、知識や技術だけでなく「世界に挑む姿勢」そのものを伝えています。こうして、挑戦の経験が世代を超えて継承され、次々と新たな挑戦者が生まれる循環型のコミュニティとなっている点がGIAの大きな特徴です。

元日本代表の学生がコーチとして携わる

GIA生日頃の活動の様子



干潟での開発



農水省へ学術データのヒアリング



湿地での実験



全国から参加する小6から高3のGIA生



自宅でのロボット開発



FGC会場での他国との戦略会議

GIA生日頃の活動の様子



シリアチームとのオンラインミーティング



チームラボへのオフィス訪問

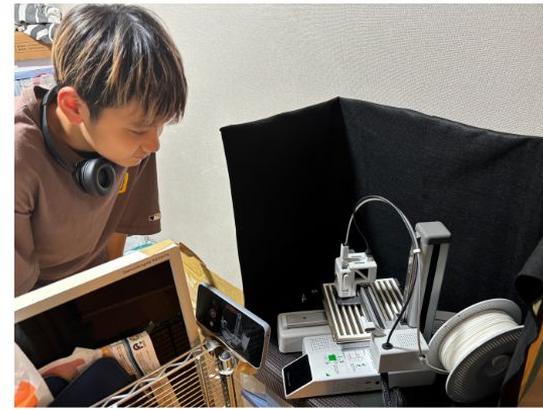
GIA生日頃の活動の様子



干潟の管理者の方への現地ヒアリング



農水省の担当課の方へのヒアリング



3Dプリンターでの開発



FGC2025パナマの試合会場



パナマ在日本大使館への表敬訪問



FGC2025パナマ 開会式入場行進

GIA生日頃の活動の様子



文部科学省への表敬訪問



初等中等教育局 局長 望月様への活動報告と提言



大規模教育カンファレンスでの活動報告



初等中等教育局 局長 望月様にプレゼン



初等中等教育局 局長 望月様と記念撮影



初等中等教育局 局長 望月様にプレゼン



MONITOR



IDENTIFY



MANAGE & PROTECT



パナマコンベンションセンター
パナマシティ



FIRST GLOBAL

FIRST GLOBAL

JAPAN
JAPÓN

FIRST GLOBAL
CHALLENGE 2025
PANAMA CITY

未来
TEAM JAPAN

JPN

Team
SEARCH

IMAN

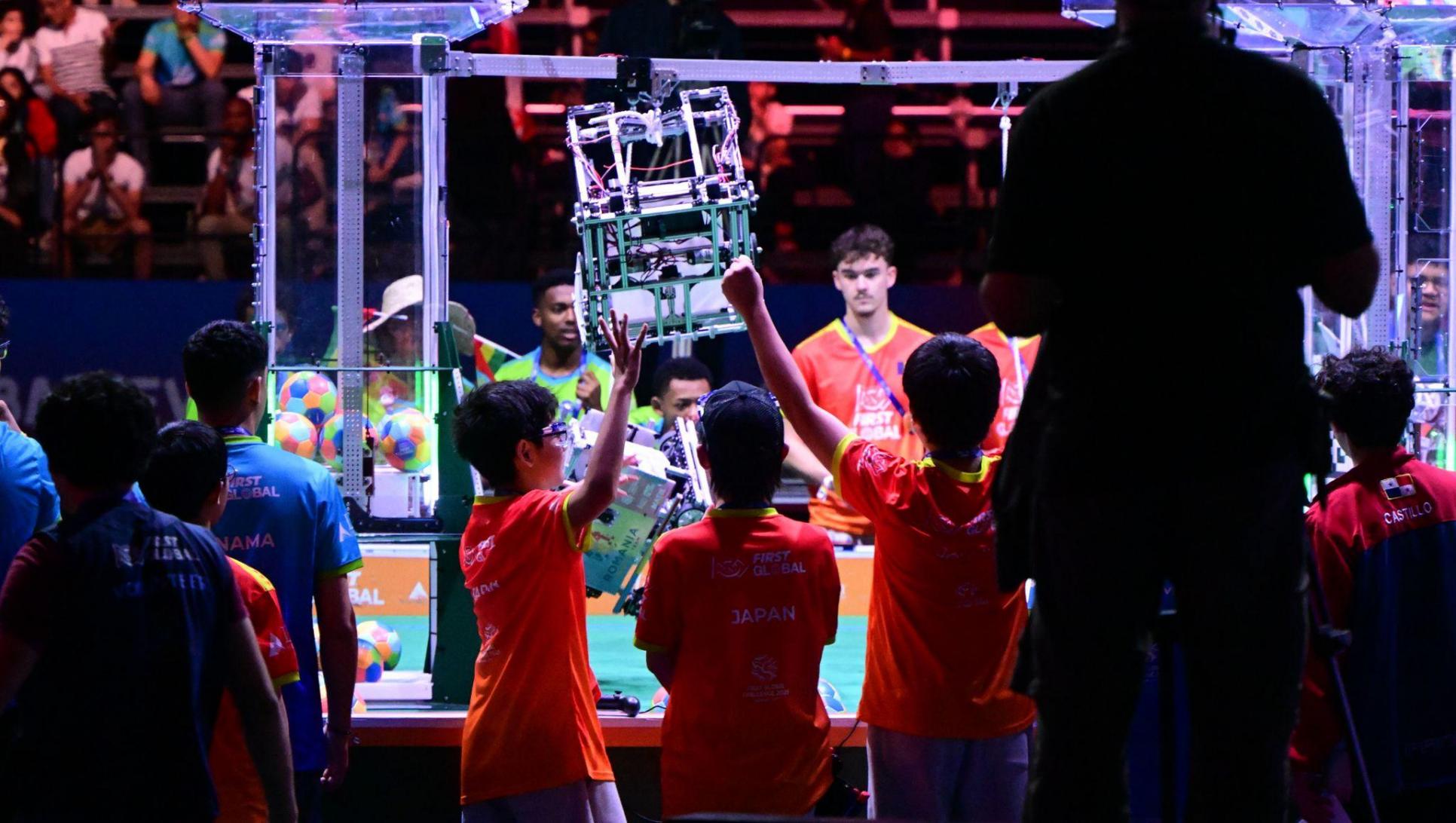
EMERSON
Duke Group AC
Cherish Campus
SUNY
PANAAM
Chuck
Davis
Alan & Loretta
Lavin
SUNY
EMERSON
Duke Group AC
Cherish Campus
SUNY
PANAAM
Chuck
Davis
Alan & Loretta
Lavin
SUNY











在籍生徒データ

| | | | |
|---------------|-------|-----|-------|
| Robotics | : 23人 | 高校生 | : 7割位 |
| Solution | : 42人 | 中学生 | : 3割位 |
| Outreach | : 32人 | 小学生 | : 数名 |
| 合計97人（重複参加あり） | | 男女比 | : 半々位 |

エントリーは130名

17都府県から参加

2026年度は300人規模で実施

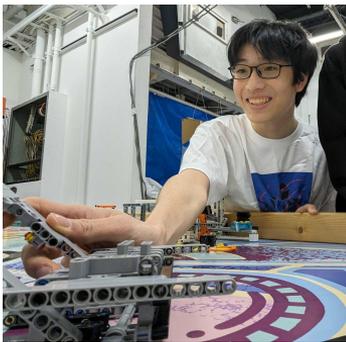
在籍生徒データ

広尾学園、開成高校、栄光学園中・高等学校、幕張西中学校、入新井第五小学校、淑徳高校、神山まるごと高専
名古屋大学教育学部附属中学校、N高等学校、駒場東邦高等学校、広島県立広島叡智学園中学校、桜丘高校
長野県諏訪清陵高等学校、江戸川学園取手高校、麻布中学校、鎌倉学園高等学校、愛知県立一宮高校、
渋谷教育学園渋谷高校、奈良県立国際高等学校、広尾学園小石川高等学校、頌栄女子学院高等学校
福山暁の星女子高等学校、佼成学園女子中等教育学校、帝京大学可児高等学校、青稜中学校、
茨城県立日立第一高等学校、桐蔭学園、

GIA生実績

- ・未踏ジュニア スーパークリエイター認定（何人かいます）
- ・SecHack365 修了（何人かいます）
- ・Technovation Girls 日本代表
- ・科学の甲子園 全国優勝
- ・英検一級（いっぱいいます）
- ・英語ネイティブ（いっぱいいます）
- ・FGC2024日本代表
- ・全国高校教育模擬国連大会「最優秀賞」
- ・AIG高校生外交官プログラム参加
- ・WRO、FLL、FRC などのロボコン全国・世界大会経験者
- ・学術オリンピック 経験者
- ・ディベート大会 全国経験者

学生コーチ



伊藤 原野 | 2022年

豊橋技術科学大学 在学

2020年に国内でのFIRST Robotics Competitionへの挑戦を開始し、2022年に日本チームとして2チーム目となるFIRST Championshipへの出場を果たす。同年FGC日本代表として出場。

2025年現在、豊橋技術科学大学 ロボコン同好会のキャプテンとして学生ロボコン世界を目指している。



永原 陵司 | 2019年

慶應義塾大学 理工学部 機械工学科在学

高校2年次にFGC日本代表チームリーダーを務める。、小さい頃に出会ったアニメ「宇宙兄弟」をきっかけに、宇宙工学を目指し、慶應義塾大学にAO入試で合格。入学後、火星探査ローバーの世界大会URCの日本初挑戦を目指す団体「ARES Project」を立ち上げ、2024年に日本初となる世界大会に出場。

ARES Project : <https://www.arespjt.jp/>



鈴木瀬那 | 2022年

北海道大学 工学部 在学

2019年にFLL全国大会準優勝を経てトルコ世界大会に出場し、部門別優勝。2022年にはFRCハワイ地方大会で新人賞を受賞し、同年のヒューストン世界大会に出場。また同年、FGCスイス大会に出場。2024年にはFRCハワイ地方大会の引率や、FLL東京予選・全国大会での引率・レフリーを担当するなど、選手と指導者の双方の立場から国内外の大会運営に関わっている。



菅谷 莉央

東京学芸大学 初等理科 在学

東京大学大学院 情報学環 研究生

ボーイスカウトの指導者としての活動や、日本小・中・高校生そろばん訪米使節団での派遣や様々な大規模教育系イベントの運営に携わる。その実績が評価されGIAアウトリーチコースのコーチを務める。

渡航帯同コーチ



坂田悠真/Yuma Sakata

慶應義塾湘南藤沢 1年

2020年、国際科学教育協会主催のスペースロボットコンテスト(文科省、総務省後援)に出場し、全国大会決勝トーナメントに進出。その後2021年、成層圏観測プロジェクトへの参加権を得て、北海道チームKIKYOのリーダーとして観測機を打ち上げデータ取得を成功。その後、小型人工衛星cube-sat打ち上げプロジェクトの開発設計担当メンバーに選出され、2025年打ち上げ。2022年、Yukikaze Technologyに所属し、FGCの日本代表メンバーとしてスイスのジュネーブに渡航。

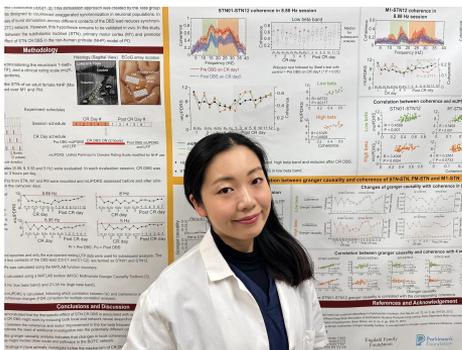


三宅 智史/Satoshi Miyake

東京大学 工学部 3年

高校時代より物理学に関心を持ち、国際物理オリンピック2022 銀賞、アジア物理オリンピック2022 銅賞を受賞した実績を持つ。学術活動のみならず、将来世代への数理・科学教育にも注力している。大規模な大学生合宿である「数物セミナー合同合宿」の運営指揮や、高校生向けの「数理の翼夏季セミナー」のスタッフを務める。また、科学オリンピックの分野では、物理オリンピック日本委員会でチューターとして作問・添削に携わる一方、国際人工知能オリンピック日本委員会 (JOAI) では第1回国内大会開催や広報イベントのロジスティクスを担当するなど、技術・運営の両面で活動している。

渡航帯同コーチ



中嶋 花音

University of Minnesota - Neuromodulation Research Center • 孫正義育英財団3期生

東邦大付属東邦高校在学中の17年にFRCチームSAKURA Tempestaを設立、3年連続世界大会出場を果たす。19年からはメンバーの活動をサポートするメンターを務めている。同年、孫正義育英財団に選拔され、米マカレスター大学に進学。現在はミネソタ大医学部の研究員として神経科学の研究を続けている。2021年よりFGC日本代表チームのコーチとして海外渡航をサポートしている。

■メディア掲載

・留学先で出会った国際ロボコン「FRC」 帰国後にチーム立ち上げ世界大会進出 実績が評価され、アメリカの大学へ|国際力の鍛えかた|朝日新聞EduA

<https://www.asahi.com/edua/article/15403009?p=1>

・中高生が自力で200万円以上の資金調達まで行う国際ロボコン「FRC」の凄み 参加過程のすべてが「STEAM教育プログラム」| 東洋経済 education×ICT

<https://toyokeizai.net/articles/-/594146>



鈴木 瀬那

北海道大学 工学部 2年

2019年にFLL全国大会準優勝を経てトルコ世界大会に出場し、部門別優勝。2022年にはFRCハワイ地方大会で新人賞を受賞し、同年のヒューストン世界大会に出場。また同年、FGCスイス大会に出場。2024年にはFRCハワイ地方大会の引率や、FLL東京予選・全国大会での引率・レフリーを担当するなど、選手と指導者の双方の立場から国内外の大会運営に関わっている。

■メディア掲載

・北海道の学生ロボコンチーム 世界で活躍、楽しさ発信 - 日本経済新聞

<https://www.nikkei.com/article/DGXZOOFC132K70T11C22A1000000/>

社会人コーチ



五十嵐 広希

東京大学大学院工学系研究科特任研究員

RoboCup世界大会、国内大会の大会運営や、NHK学生／高専ロボコンなど、各種ロボット競技会の運営に、無線管理や安全管理の観点で携わる。本業はロボットやドローン（無人機航空機）の安全の標準化や制度設計。



川節 拓実

京都大学工学部 講師

2020年より大阪大学大学院基礎工学研究科助教。021年より国際電気通信基礎技術研究所（ATR）客員研究員。2024年より京都大学大学院工学研究科講師。日本ロボット学会研究奨励賞，IEEE EDS Kansai Chapter MFSK Awardなどを受賞。ソフトロボティクスや知覚に興味を持ち，やわらかな触覚センサやそれを用いたヒト運動計測，生体における視覚情報処理など主としてセンシングに関する研究に従事。



花守 弘樹

九州大学 社会人博士

九州大学修士課程在学中に日本で初めて、世界最大の中国のロボット競技会

「Robomaster」に参加し、初出場ながらもファイナルトーナメント進出を果たす。その後、NHK小学生ロボコンの企画・監修・解説や高専ロボコンの解説など、全国的なロボット教育イベントで活躍。社会人博士課程の学生としてソフトグリッパ研究にも取り組み、実務と学術の両面からロボティクスの発展を目指している。



鹿野 利春

京都精華大学 教授

石川県の公立学校教諭に勤務した後，石川県教育委員会を経て文部科学省にて高等学校情報科担当の調査官として勤務。新学習指導要領をまとめた後，情報Ⅰ・情報Ⅱの教員研修用教材をまとめ、情報教育の施策に携わる。

オープニング

- 本日の流れと目的の共有

なぜやっているのか？

supported by  助成協力
一般財団法人
三菱みらい育成財団

オープニング

- 本日の流れと目的の共有

世界が大激変しているから

supported by  助成協力
一般財団法人
三菱みらい育成財団

オープニング

- 本日の流れと目的の共有

そして日本が世界に取り残され 始めてるから

助成協力
一般財団法人
三菱みらい育成財団

supported by  三菱みらい育成財団

日本の教育関係者のよくある勘違い

学術オリンピックの金メダル

メダルの定義

金メダル 上位 1/12

銀メダル 上位 2/12

銅メダル 上位 3/12 大体80~120カ国が参加

金メダルは1位じゃない

FGC日本代表の過去と今これから

- 物理オリンピックの総メダル数ランキング



Cata Paul

@CataPaul2

🏆 Top 50 Countries by International Physics Olympiad (IPhO) Medal Count (as of 2024)

| | | | | | |
|-----|--|---------------|-----|----|-----|
| 1. | | China | 151 | 21 | 9 |
| 2. | | Russia | 96 | 47 | 10 |
| 3. | | South Korea | 88 | 28 | 24 |
| 4. | | United States | 80 | 34 | 18 |
| 5. | | Taiwan | 78 | 51 | 29 |
| 6. | | Hungary | 61 | 89 | 62 |
| 7. | | Vietnam | 51 | 53 | 14 |
| 8. | | Iran | 49 | 47 | 27 |
| 9. | | Romania | 45 | 68 | 102 |
| 10. | | Japan | 44 | 54 | 49 |
| 11. | | India | 41 | 26 | 22 |
| 12. | | Germany | 37 | 72 | 39 |
| 13. | | Thailand | 37 | 50 | 22 |

物理以外も全体的にこれくらい
年々順位は低下している

東京大学

世界大学ランキング26位

すでに中国・シンガポールなどに抜かれ
アジアトップの地位からは陥落している

データで見る日本の子どもたちの現在地

～人材育成エコシステムの敗北～

「技術大国ニッポン」のイメージは、世界の若者たちの中では、もはや過去のものとなりつつあります。世界の10代が競い合う主要なロボット・科学コンテストにおいて、日本の順位は長期的に低下傾向、あるいはすでに新興国の後塵を拝しています。これは単なる競技結果の問題ではなく、将来の産業競争力の低下を招き、**日本の若者たちの未来が閉ざされていく**ことを意味します。

FIRST Championship への日本チームの出場

世界からの参加

1,000

チーム 約 50,000人

日本からの参加

3

チーム 約 40人

※110カ国が参加する地域予選を突破したチームが出場するワールドカップ形式

U18 国際ロボコン FIRST Global Challengeの順位

1位 2位 3位 4位 5位 6位 7位 8位 9位 10位

| | | | | | | | | | | | |
|------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|------|
| 2025 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 103位 |
| 2024 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 85位 |
| 2023 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | 113位 |

カザフスタン ベネズエラ

中央アジアとグローバルサウスの衝撃の台頭

※約190カ国 各国代表1チームがが出場するオリンピックスタイル

WRO (World Robot Olympiad) 2025の年代別順位

1位 2位 3位 4位 5位

| | | | | | |
|-------|--|--|---|---|---|
| 小学生部門 |  マレーシア |  |  香港 |  |  |
| 中学生部門 |  |  |  |  |  タイ |
| 高校生部門 |  |  ハンガリー |  |  シンガポール |  ベトナム |

既に東南アジアに抜かれている

※約90カ国 各国予選の上位数チームが出場する形式

日本のトップは世界のトップじゃない

日本は

子どもたちがどんなにがんばっても、

世界のトップにはなれない国



FIRST
GLOBAL



FIRST Global Challenge



190カ国以上が参加する
世界最大の高校生**STEM**オリンピック
「**FIRST Global Challenge**」

5年で世界一を目指す

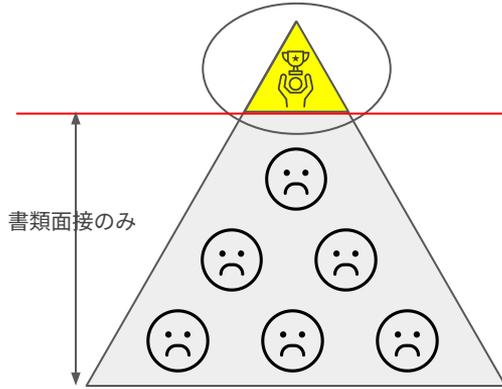


FIRST
GLOBAL

プログラム概要説明

課題

極少数の卓越人材への育成になっている



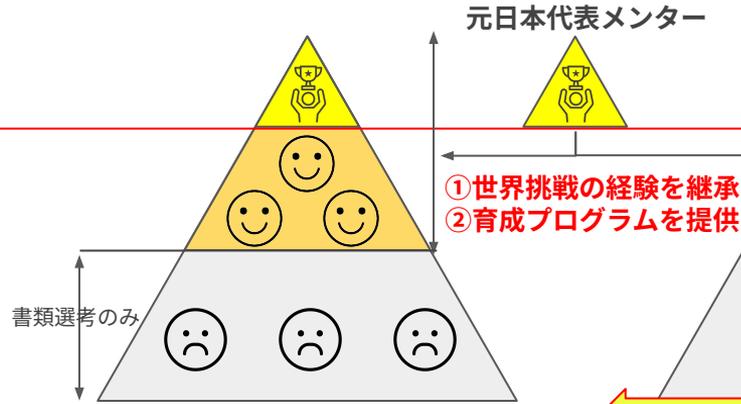
いままで

書類・面接の選考で選ばれた
日本代表のみが世界へ挑戦

短期の結果は出ても
インパクトは大きくならない

目標

より多くの卓越人材の育成を仕組み化

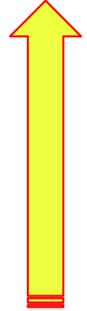


今回のチャレンジ

日本代表選考参加者も世界挑戦の
教育プログラムを受け育成

世界への挑戦の機会をより多くに提供し
卓越人材を育成可能に

頂きを高く



裾野を拡大



展望

教育プログラムの規模を拡大していき
裾野を広げ、頂きを高くする。
イノベーターをより多く輩出することが可能に

他のジャンルのグローバルコンテストでも
同様の教育プログラム開発が可能

海外はなにが違うのか？

110カ国から5万人が集結

ここが
試合会場

グローバル理工人材育成エコシステム視察ツアー FIRST Championship 2026

世界最高峰の教育の「共創」と「スカウト」の現場を目撃する

世界は10代の才能を共に育て、見出す時代へ。

日程: 2026年4月28日(火)~5月5日(火・祝)

場所: 米国テキサス州ヒューストン

企画・運営: Global Innovator ACADEMY / NPO法人教育の環

最終更新 2026/2/18



世界最大のSTEM教育プログラム「FIRST」

～ 6-18歳 世界110カ国で100万人が参加 ～



**FIRST
LEGO
LEAGUE JR.**

Ages 6-10 (Grades K-4)

**FIRST
LEGO
LEAGUE**

Ages 9-16* (Grades 4-8)

**FIRST
TECH
CHALLENGE**

Ages 12-18 (Grades 7-12)

**FIRST
ROBOTICS
COMPETITION**

Ages 14-18 (Grades 9-12)

学年に応じた4つのカテゴリ毎の全世界予選を勝ち抜いた
1,000チーム 50,000人がヒューストンに集う年に一度の世界大会

「FIRST Championship」

「STEM競技会」をハブとした 産官学による育成モデルを視察 ～ 世界標準の理工人材育成エコシステム ～



FIRST Championshipは単なる
「世界最大の国際ロボットコンテスト」ではありません。
企業・大学・地域が一体となって「10代の才能」を育成し、
スカウトするための巨大なエコシステムです。



6-18歳の参加者
110カ国 100万人が参加する
STEM競技会「FIRST Championship」



孫正義育英財団

出展企業・大学例（一部）

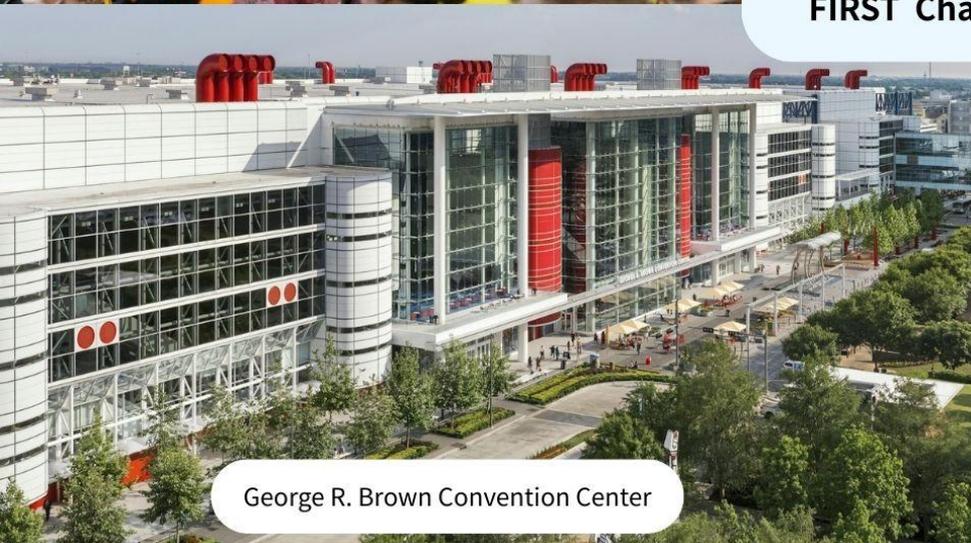


5万人が参加する競技会場



1000以上あるチームブース

FIRST Championship



George R. Brown Convention Center



全世界から集まる各国代表の様子

動画をご覧ください

supported by  一般財団法人
三菱みらい育成財団





NASA



国防省

大会支援企業



ジョンソン&ジョンソン



Boeing

出展している大学

～ 50万ドル以上の奨学金を拠出しているプラチナパートナー～

- ・マサチューセッツ工科大学 (MIT)
- ・イエール大学
- ・ボストン大学
- ・ウースター工科大学 (WPI)
- ・レンセラー工科大学
- ・ロチェスター大学
- ・シラキュース大学
- ・デュレーン大学
- ・イリノイ工科大学
- ・サバナ・カレッジ・オブ・アート・アンド・デザイン
- ・エリソン・スカラーズ・プログラム
- ・キャピトル・テクノロジー大学
- ・フロリダ工科大学
- ・ジョンソン・アンド・ウェールズ大学
- ・ケタリング大学
- ・ローレンス工科大学
- ・ミルウォーキー工科大学
- ・オーリン工科大学
- ・ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校
- ・テクミレニオ大学
- ・ウェッブ・インスティテュート
- ・ウェスタン・ニューイングランド大学
- ・ウィリアムソン・カレッジ・オブ・ザ・トレード



世界から集まる大学の出展ブース



MITのブース

FITRSTのコミュニティの 奨学金総額 約100億円

世界は10代の才能を共に育て、見出す時代へ。

NASA、Google、MITは、単なるブランドとして露出しているのではなく、
「メンター」として学校や地域と共に子どもたちの隣にいます。

人材育成・獲得タイムラインの比較

Japan (学校モデル)



Global (エコシステムモデル)



理想的な産官学連携モデル ～NASA × 地元公立高校～

特殊な事例ではなく「地域の企業・大人」が
学校で子どもたちを共に育てる仕組み

・地元企業(NASA)との連携

メインスポンサーとしての資金提供するだけでなく、
現役エンジニアがメンターとして技術指導を行います。

・人材還流

NASAのエンジニアが高校生を指導し、育った人材がNASAに就職や
関連企業へ戻るエコシステムが完成しています。

・施設の共有

公立高校内にプロ顔負けの工作機械を備え、子どもたちが好きなこ
とを好きなだけいくらでも学べる環境があります。

・億単位の潤沢な活動予算

地域の企業からのスポンサーによって、大学の研究室並の活動予算
があります。中高生年代から億単位のお金を扱うことによって、大
学進学後に起業する際には当たり前数十億単位のチャレンジをす
るようになります。

※視察先の学校・チーム
Clear Creek High School
Team 118 「Robonauts」

<https://www.118robonauts.org/>



Clear Creek High School



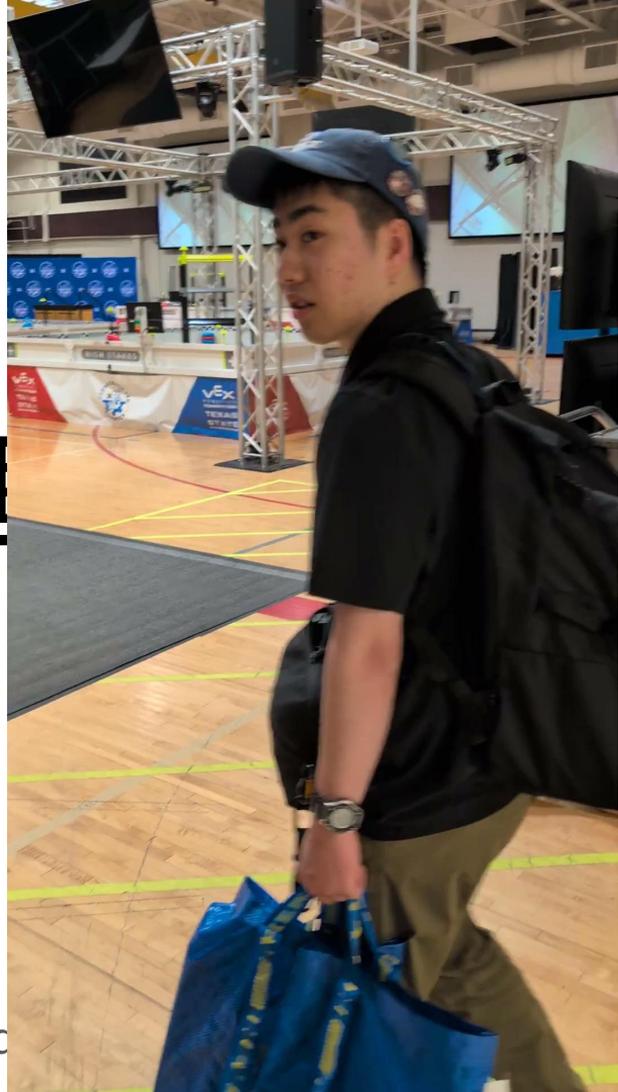
学校の練習場



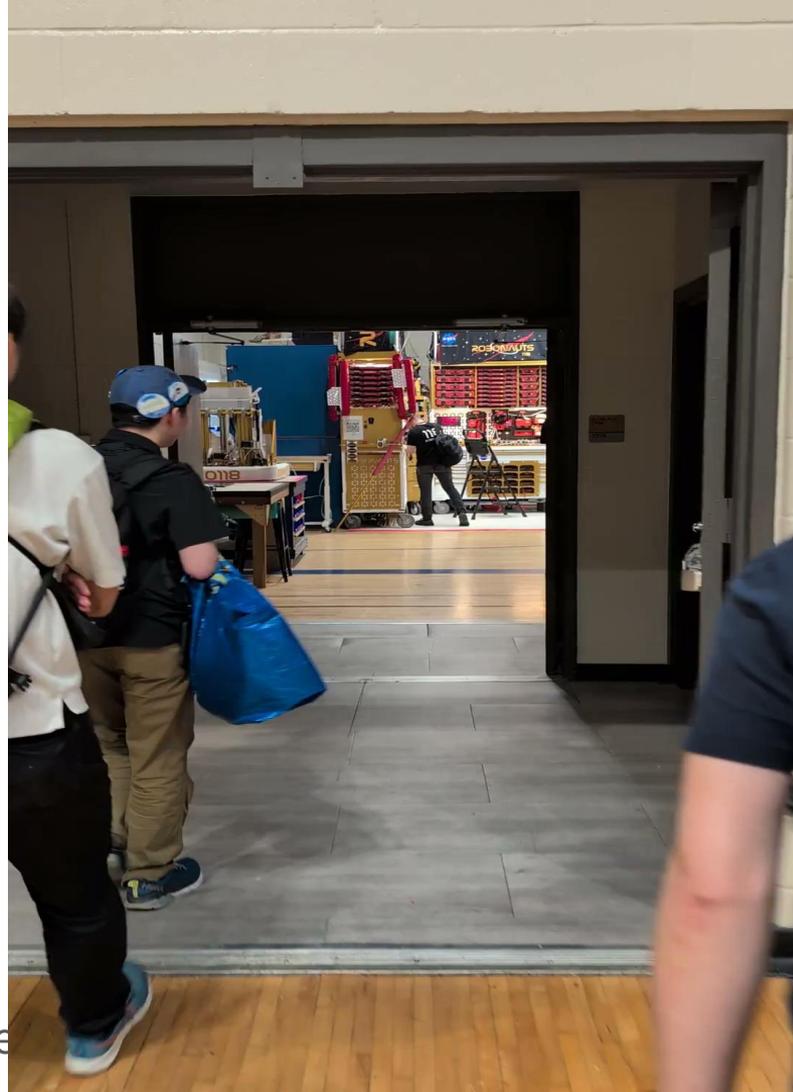
地元公立高校の練習場



動画 さい



supported



supporte



日本の子どもたちを、世界に負けない人材へ。

「奪い合い」ではなく、「育て合い」へ。企業・大学・行政・地域が連携し、
子どもたちが世界で輝くための新しいエコシステムを、
このツアーから始めましょう。

Global Innovator ACADEMY 日本代表チーム

こんな方におすすめ！

経営者・人事・VC

リクルーティング

AppleやBoeingなど世界企業が次世代投資として支援しています。卒業生の63%がSTEM分野で活躍し、専門性だけでなくチームワークや問題解決能力も兼ね備えた、即戦力人材の発掘現場です



大学関係者

大学広報・教育手法

MITやイェール大など名門校と並ぶブランド連携が可能です。参加者の学位取得率は約90%に達し、優秀なSTEM人材や女子学生の獲得に直結します。大学のリーダーシップと教育成果を対外的に示す強力な広報材料となります



自治体・教育行政

地域教育エコシステム

世界110カ国以上で展開され、教育格差の是正やジェンダー平等（DEI）を推進する成功事例です。競技を通じた地域社会への貢献活動や、持続可能な教育コミュニティ構築のノウハウを視察できます。



教員・教員管理職

STEAM探究

FIRSTのプログラムは、単なるイベントではなく教育効果が実証された探究学習の最高峰モデルです。90%近い大学学位取得率や、生徒の問題解決力・忍耐力の向上など具体的な成果がデータで示されており、カリキュラム導入や学校の特色作りのヒントが得られます



なによりも、日本の子どもたちのより良い未来をつくる志のある方



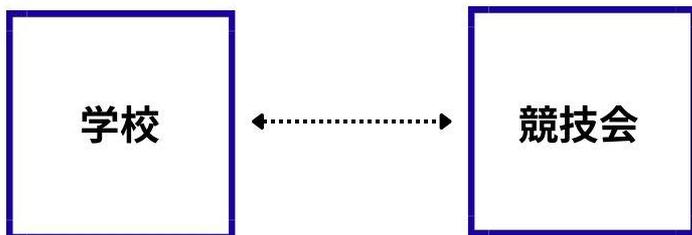
日本の科学技術人材育成、 世界標準とのギャップ

国際STEM競技会の現場で起きている構造変化と、
日本と世界の人材育成のギャップに関する調査提言

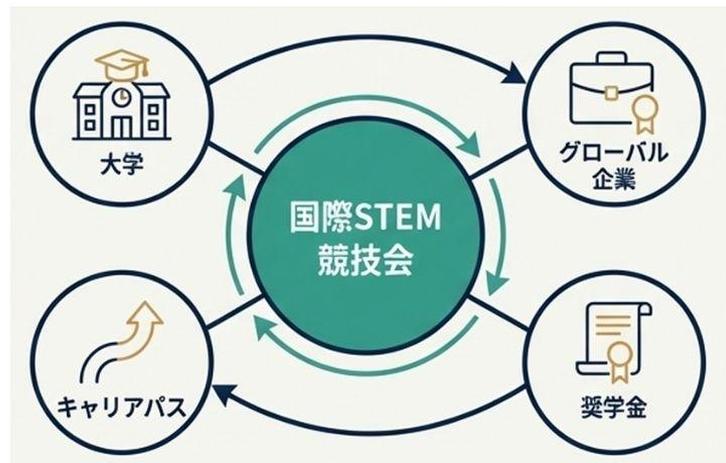
問題の本質は「才能」の差ではなく、「育成エコシステム」の差

国際STEM競技の差は「才能」ではなく
「育成×評価×採用が接続したエコシステムの差」である。

日本の現状：断絶



世界標準：エコシステム



世界では「育成エコシステム」の構築が国家戦略となっている

主要国や地域連合は、単なる競技会支援に留まらず、省庁、財団、産業界が一体となり、才能の「発掘→育成→選抜→進路接続」までをシームレスに繋ぐ国家レベルのエコシステムを設計・運用している。



中南米
(ベネズエラ)
広域連携による標準化



アフリカ
(ナイジェリア)
広域連携による標準化



UAE
国家AI戦略との同期



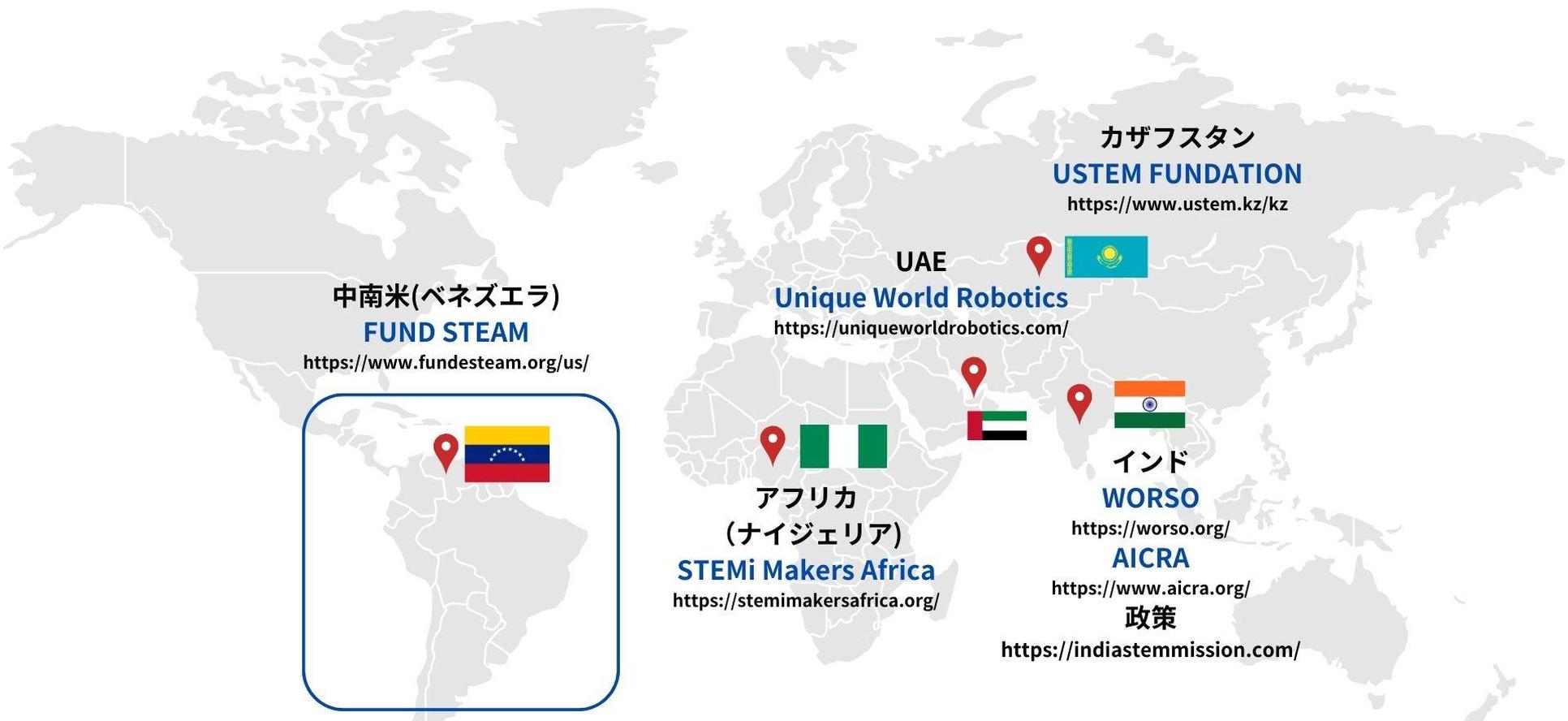
カザフスタン
財団と国家連携の統合パイプライン



インド
圧倒的拠点数による
母集団形成

各国の理工系人材育成を主導する団体

各国世界主要なSTEM競技において世界トップレベルの成績を残している



中南米(ベネズエラ)

FUND STEAM

<https://www.fundesteam.org/us/>



UAE
Unique World Robotics
<https://uniqueworldrobotics.com/>



カザフスタン
USTEM FUNDATION
<https://www.ustem.kz/kz>



アフリカ
(ナイジェリア)
STEMi Makers Africa
<https://stemimakersafrica.org/>



インド
WORSO
<https://worso.org/>
AICRA
<https://www.aicra.org/>
政策
<https://indiastemmission.com/>

この“世界標準ギャップ”を、どう埋めるべきか？

机上の調査や報告書の分析だけでは、このダイナミックな「人材市場」の実態と、各国の戦略が現場でどう機能しているかの核心は掴めない。最初の、そして最も重要な一歩は、このエコシステムの中心地で、我々自身の目で「差分（Gap）」を正確に把握することである。



110カ国から5万人が集結

ここが
試合会場

グローバル理工人材育成エコシステム視察ツアー FIRST Championship 2026

世界最高峰の教育の「共創」と「スカウト」の現場を目撃する
世界は10代の才能を共に育て、見出す時代へ。

日程: 2026年4月28日(火)~5月5日(火・祝)

場所: 米国テキサス州ヒューストン

企画・運営: Global Innovator ACADEMY / NPO法人教育の環

最終更新 2026/2/18





日本の子どもたちを、世界に負けない人材へ。

「奪い合い」ではなく、「育て合い」へ。企業・大学・行政・地域が連携し、
子どもたちが世界で輝くための新しいエコシステムを、
このツアーから始めましょう。

お問い合わせ・お申し込み
Global Innovator ACADEMY 事務局
Email : gia_secretariat@educationcircle.or.jp
Phone : 090-4028-1585